



# 鳥取県畜産共進会(和種々牛の部)～次世代を担う若手が活躍～

令和2年10月30日、鳥取県畜産共進会和種々牛の部が琴浦町の中央家畜市場で開催されました。5つの区に県下からのべ45頭が出品され、日野郡からは9月に開催された西部家畜共進会で優等賞となった3頭が審査を受け好成績を収めました。

なかでも、山形美智也さん(63歳)の「ゆりかご696」号は、首席に次ぐ優等賞2席と大健闘しました。当日は、後継者の俊樹さん(32歳)が牛の「持ち手」を担当しました。

また、石橋弘充(32歳)さんの「はっぴい」号は特別賞を受賞し、足羽庸治さんや山形美智也さんのようなベテランに加え、こうした若手生産者の活躍がこれからの「日野郡の和牛」を支えていくものと期待されます。



【日野郡の出品牛と結果一覧】

出品区	町名	出品者	出品牛名号	結果(出品頭数)
第1区	日南町	足羽庸治	やすふくしぼ	優等賞4席(10)
第3区	日南町	山形美智也	ゆりかご696	優等賞2席(15)
第3区	日南町	石橋弘充	はっぴい	優等賞6席(15)特別賞(前席)

※出品区は牛の生年月日などにより5区に分けられています。  
※特別賞(前席)は牛の前側が特に優れている牛に与えられます。



山形俊樹さんと審査を受ける「ゆりかご696」号



石橋弘充さんと「はっぴい」号

## 若手生産者の感想と略歴

◆山形俊樹さん  
結果については、2席になれた達成感と首席になれなかった悔しさが入り混じった感じ。この悔しさと参加した経験を来年の共進会へ活かしたい。

略歴 平成20年に農業大学校を卒業後、父 美智也さんの和牛繁殖経営に参画。現在、親子で繁殖和牛30頭を飼養し、個人経営では日野郡最大規模。

◆石橋弘充さん  
特別賞は、自分も気づいていなかった「はっぴい」号の良いところを評価してもらえてうれしかった。これを励みに日々の牛飼いを頑張りたい。また、令和4年に鹿児島県で開催される全国和牛能力共進会に出品できるよう努力します。

略歴 平成21年に農業大学校を卒業後、鹿児島県と県内和牛農家での研修を経て、平成25年に新規就農。現在、夫婦で繁殖和牛23頭を飼養。

日野郡振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2027 FAX:0859-72-2090

## 新たな人材を求めて ～日野郡中山間営農ネットワーク協議会の試み～

日野郡の水田農業の中心を担う農業法人等が参加する「日野郡中山間営農ネットワーク協議会(古都久志 会長、21経営体)」が、令和2年10月15日、鳥取県立農業大学校の学生を対象とした就職説明会を開催しました。

当日は、会員の5法人と就農研修制度を運営する(一財)日南町産業振興センター及び就農や農業法人への就職に関心のある学生7名(1年生3名、2年生4名)が参加しました。始めに学生が自己紹介した後、各法人ブースで学生1人1人に会社概要や魅力をアピールしました。学生は真剣に説明を聞き、活発な質疑応答が交わされました。

今回は初めての試みでしたが、学生からは「もっと法人等の話を聞きたかった」、参加法人からは「インターンシップを受け入れたい」「こうした説明会は継続すべき」等の前向きな声が挙りました。

この会をきっかけに関わりを深める学生と法人もできました。今後は他会員へも活動を広げ、人材確保に向けた取り組みを進めていきます。



対面で説明を行う法人役員と学生

日野郡振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2028 FAX:0859-72-2090

日野郡振興センターだより 4

## 令和2年度(第104回) 大日本農会 農事功績者表彰

### 緑白綬有功章

つばくらかつゆき  
坪倉勝幸氏(日南町阿毘緑)

コロナ禍のため、じきじきの贈呈はかないままでしたが、大日本農会総裁秋篠宮皇嗣殿下より授けられ、11月26日平井知事から伝達されました。

坪倉氏は、永年にわたり中山間地の水稲優良品種の選定と産地化、担い手の育成、ほ場整備・集落営農を推進し、地域農業の振興に貢献されました。

このたびは、標高500mを超える山間の立地にあっても、作業受託体制を先駆的に確立し、大規模稲作、売れる米作りによる優良経営を先導的に実践され、信念として堅持されてきた「地域との共存共栄」の基本姿勢が高い評価を得て、本県では9年ぶりの栄誉となりました。

(注)大日本農会は、農業農村の振興と発展に寄与することを目的に、明治27年創設の農事功績者表彰事業等を実施する公益社団法人



知事から伝達の様子

## 令和2年度江府町新嘗祭 献穀米関連行事

～抜穂式から献穀米引渡しまで～



抜穂式(記念稲刈り)



森田ご夫妻(右)から生産振興課へ献穀米引渡し



抜穂式(記念写真)

10月21日、天皇陛下自らが今年の豊かな収穫に感謝し来年の豊作を祈願される「新嘗祭」に献上する献穀米が、森田照男さん、和江さんご夫妻から県生産振興課へ引き渡されました。献穀米は、同課から宮内庁へ送付されました。今年は新型コロナウイルスの影響で例年とは異なり、献穀者等が直接皇居で献上することに替えて行われたものです。

4月の播種、5月の田植え以来、貝田集落の皆さんの協力のもと、献穀者である森田ご夫妻が丹精込めて栽培され、台風や鳥獣の被害もなく、立派な稲穂が実りました。

9月には澄み渡る秋空の下、平井知事をはじめとする来賓にもお越しいただき、貝田の斎田にて「抜穂式」が厳かに行われました。当日は、森田ご夫妻のお孫さんも「御刈女(おかりめ)」として稲刈りをされ、無事収穫できる喜びを参加者全員がかみしめました。手刈りをされた稲穂は、はでにかけられ約1か月弱天日干しにされた後、献納される一升のお米を準備するため、関係者が一粒一粒心を込めて選別しました。

今後は、来年の献穀者(八頭町)に種子を引き継ぐ「引渡式」が予定されています。次に、日野郡において新嘗祭の献穀に取り組むのは、6年後の予定です。

日野郡振興局 農林業振興課 電話:0859-72-2004 FAX:0859-72-2011

日野郡振興センターだより 3

## 表彰された日野郡の農林業者を紹介します

### 鳥取県優秀経営 農林水産業者等表彰

鳥取県農林水産業の発展を図るため、技術及び経営の優れた農林水産業者を知事表彰するものです。令和2年度は6部門において日野郡の2名と1組織を含む48経営体・組織が表彰され、10月14日、表彰式典がとりぎん文化会館で行われました。

#### 農林水産業 功労者

くしろこういち  
久代宏一氏(日野町黒坂)

10代の頃から半世紀以上にわたって、原木椎茸生産に取り組み、周囲の生産者と連携しながら大規模経営を実践してきました。

原木の伐採、搬出、植菌等の椎茸生産に係るほぼ全ての工程を自ら行うとともに、水稲生産等との農林複合経営を行っています。

また、1ターンしてきた廣瀬俊介氏に椎茸栽培の指導を行ったり、新規生産者の参入・育成のための団体を結成するなど、地域における椎茸産業の将来を見据えた後継者育成にも力を入れています。

県土の緑化や森林保全に功績のあったものを表彰する「鳥取県美しいもりのづくり功労者」も受賞されました。



日野町の原木椎茸生産者が「鳥取県美しいもりのづくり功労者」も受賞されました。

#### 未来を担う 青年農林 水産業者

ひろせしゅんすけ  
廣瀬俊介氏(日野町根雨)

きのこが大好きで、平成25年、原木椎茸生産者になるために日野町へ1ターン。久代宏一氏から椎茸栽培の指導を受けました。

現在は、椎茸の達人を意味する「しいたつ」という独自ブランドを立ち上げ、原木椎茸の品質の高さをPRするとともに、町内外のイベントへも精力的に出店し、地域活性化に貢献しています。また、戻し時間を大幅に短縮でき、旨味も増す低温乾燥の乾椎茸生産にもチャレンジし、原木椎茸産業界の若きリーダーとして業界に新しい風を吹き込んでいます。



#### いきいき 農林水産業 組織

みちくさ推進会議 会長 三輪典子氏(江府町佐川)

地場産物の消費拡大や地域の活性化を図るため、江府町の生産者が育てた野菜や米、その加工品を自主運営する特産物直売所で販売しています。

また、安心安全な食べ物を子供たちに食べさせたいと学校給食への食材提供や保育園での餅つき交流など継続しています(今年は新型コロナウイルス感染症のため交流事業等を中止しました)。



## 蜜蜂を飼育される方へ



蜜蜂を飼育される方(趣味の養蜂を含む。)は、養蜂振興法の規定により毎年1月31日までにその年の「蜜蜂飼育届(1月1日～12月31日の飼育計画)」を県に提出する必要があります。

日野郡にお住まいの方は日野郡振興センターに提出してください。手続き等についてご不明な点がありましたら、問合せ先(72-2004)にご連絡ください。

日野郡振興センターだより 2